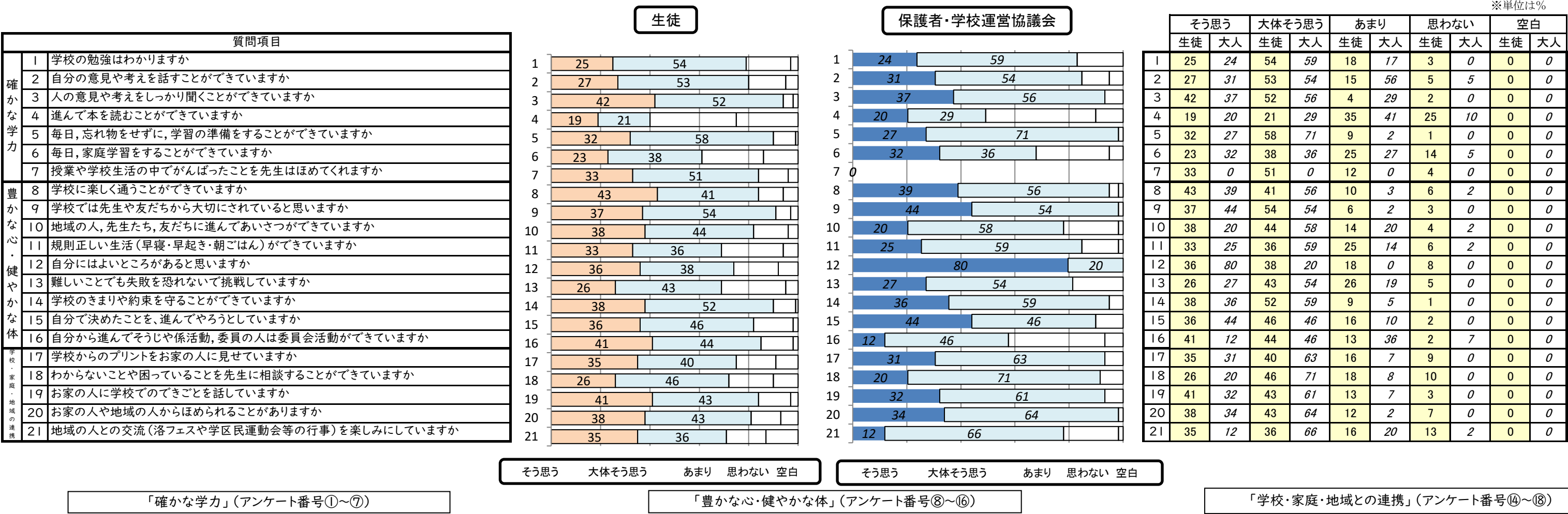


○目指す子ども像(ブロック共通) 夢の実現に向けて共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標(児童生徒の共通する課題より) (1)コミュニケーション能力を育成するための「言語活動」を充実する。～つながる・深める・伝え合う～ (2)児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいきいきと生活できる生徒〈体〉



1. 基礎的・基本的な知識・技能の定着
アンケート1「学校の勉強はわかりますか」については、「そう思う」が25%、「だいたいそう思う」が54%で、79%の生徒が「概ねわかる」と回答しており、前年度の後期より1ポイント増加しました。授業で基礎基本の知識を定着させてスモールステップを踏んで自信をもって活用させ、思考したことを積極的に表現し伝えられるようにし、相互に交流することを活性化させます。課題解決ができた積み上げにより、主体的に学ぶ意欲を高め、学びに向かう力を育成できるよう授業改善に取り組んでいきます。

2. 思考力・判断力・表現力の向上
アンケート2「自分の意見や考えを話すことができますか」については、「そう思う」が27%で、「だいたいそう思う」が53%で、80%の生徒が「概ねできている」と回答しており、前年度の後期より7ポイント増加し、昨年度の同時期と比べて15ポイント増加しています。思考力・判断力・表現力が着実に伸びてきており、自分の考えを組み立てて「書くこと」で思考を整理し、人や資料との対話的な学習活動を意図的に組み込む授業設計を工夫していきます。

アンケート3「人の意見や考えをしっかりと聞くことができますか」については、「そう思う」が42%、「だいたいそう思う」が52%で、94%の生徒が「概ね聞くことができる」と回答しており、おり、前年度の後期より1ポイント増加しました。「聞く」ことを大切にすることは、知的好奇心を喚起させ、自分と相手の考えを比較することによって自分の考えの幅を広げ、個別の課題に応じた新たな発見ができるように、すべての教科で取り組んでいます。

アンケート4「進んで本を読むことができますか」については、「そう思う」が32%で、「だいたいそう思う」が58%で、90%の生徒が「進んで本を読むことができる」と回答しており、前年度の同時期と比べて5ポイント増加しました。依然として読書の習慣が定着していないので、総合的な学習に時間や朝の帯時間の活動の中で、読むことへの興味・関心を高める取組を行工夫していきます。

3. 家庭学習の習慣化
アンケート6「毎日、家庭学習をすることができますか」については、「そう思う」が23%、「だいたいそう思う」が38%で、61%の生徒が「概ね家庭学習に取り組んでいる」と回答しており、前年度の後期と同じ結果であり、自学の習慣が定着してきたので、今後は家庭学習に取り組んだ内容や成果が、翌日の授業に直接反映される課題設定を工夫していきます。将来の夢を実現するために、個別の課題への取り組みが評価されることで、積み重ねを続けられる自己解決力を大切にしていきます。

1. 自己肯定感や自己決定の育成
アンケート8「学校に楽しく通うことができますか」については、「そう思う」が43%、「だいたいそう思う」が41%で、84%の生徒が「概ね楽しく登校できている」と回答しており、前年度の後期より2ポイント増加しました。学校祭などの学校行事では生徒会が中心となり、仲間と協力し合う取り組みを通して日常的に互いの活躍を認め支えることができるように働きかけることで、自己肯定感や自己有用感を伸ばすことができました。常に教職員が生徒と連携しながら仲間づくりを推進し、誰もが居心地の良い学校づくりを目指した支援を行っています。

アンケート9「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」が37%、「だいたいそう思う」が54%で、91%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、前年度の後期と同じ結果であり、共感的人間関係づくりが定着してきたと思います。互いを高め支えあうことが、自分にとっても相手にとっても不可欠であるという価値観が全校に広がってきました。

アンケート12「自分にはよいところがあると思いますか」については、「そう思う」が36%、「だいたいそう思う」が38%で、合計は74%となり、昨年度の同時期と比べて2ポイント増加しています。生徒の自己肯定感が高まり、失敗を恐れる場面が減ってきていると思われるので、今後もより一層生徒が活躍できる場面を意図的につくり、生徒会活動の中で、生徒の集団を引っ張る取組を増やすことにより、さらに経験値を高め自信をつけさせたいと思います。

アンケート15「自分で決めたことを進んでやろうとしていますか」については、「そう思う」が36%、「だいたいそう思う」が46%で、82%の生徒が「概ねそう思う」と回答しています。まだ2割弱の生徒が自己決定を行い切れていないので、まずは自分ができそうな目標を設定させ、丁寧な励ましと承認の繰り返しによって自ら挑戦したことが周りに認められ成果を出すことで、自信に繋がることを実感させていきたいと考えます。

2. 基本的生活習慣の確立
アンケート11「規則正しい生活ができていますか」については、「そう思う」が25%、「だいたいそう思う」が59%で、84%の生徒が「概ね規則正しくできている」と回答しており、前年度の後期より16ポイント増加しました。全体的に規則正しい生活のリズムが整ってきたと思われるので、今後も定着が進んでいくように啓発を継続していきます。

1. 家庭・地域との連携
アンケート18「わからないことや困っていることを先生に相談することができますか」については、「そう思う」が26%、「だいたいそう思う」が46%で、72%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、昨年度の同時期と比べて10ポイント増加しています。生徒の気持ちに寄り添い、細かな働きかけを意識して継続してきたことを、今後も継続していきます。

アンケート19「お家の人に学校でのできごとを話していますか」については、84%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、昨年度の同時期より3ポイント増加し、アンケート20「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、81%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、昨年度の同時期より7ポイント減少しました。家庭で子どもたちと共通の話題で話を行う中で、他者から評価されることが子どものモチベーションを高めることになります。子ども自身の判断に基づいて、場面に応じた適切な行動の選択ができたことは、どんなに小さくてもほめて認められることが自尊心を高め、自己決定力を獲得していくことにつながります。大人が子どもたちをきめ細かく見取り見守ることを通して、生徒と家庭・地域・学校の大人との心の繋がりが強くなっていきます。信頼できる人間関係をつくることにより、子どもが自立する成長に結びつくと考えています。

アンケート21「地域の人との交流(洛西ふれあいフェスティバルや学区民運動会等の行事)を楽しみにしていますか」については、「そう思う」が35%、「だいたいそう思う」が36%で、71%の生徒が「概ねそう思う」と回答しており、昨年度の同時期と比べて9ポイント増加しています。地域の人たちとのふれ合いの場である地域行事を大切にし、地域行事に積極的に参加できるようになることを通して、地域とのつながりを意識して地域に貢献できる人材を育てることにつなげていきたいと思います。

2. あいさつの習慣化
アンケート10「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、82%の生徒が「概ねしている」と回答しており、昨年度の同時期と比べて7ポイント増加しています。生徒会活動においても、挨拶の大切さを伝える取組を生徒が主体となって取り組んでいきます。